

分野別学習内容

目 次

・基礎分野

科学的思考の基盤

心理学 看護と物理 教育学 論理的思考・・・・・・・・・・ P1

哲学・倫理 情報科学Ⅰ・Ⅱ・・・・・・・・・・ P2

人間と人間生活・社会の理解

社会学 文化人類学 人間関係論 スタディ・スキル・・・・・・・・ P3

看護と英語 健康と運動Ⅰ・Ⅱ・・・・・・・・・・ P4

・専門基礎分野

人体の構造と機能

人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ 臨床生化学・・・・・・・・・・ P5

疾病の成り立ちと回復の促進

病理学 検査と治療 微生物学 臨床病態学Ⅰ～Ⅲ・・・・・・・・ P6

臨床病態学Ⅳ・Ⅴ 薬理学Ⅰ・Ⅱ 栄養学・・・・・・・・・・ P7

健康支援と社会保障制度

地域と福祉 社会保障論 公衆衛生学 多職種役割と連携

リハビリテーション論 医療論・・・・・・・・・・ P8

・専門分野

看護学概論 基本技術論Ⅰ～Ⅲ 生活援助技術論Ⅰ～Ⅲ・・・・・・・・ P9

診療援助技術論Ⅰ・Ⅱ 教育指導技術論 臨床看護総論・・・・・・・・ P10

地域の暮らしと看護 地域・在宅看護概論 地域・在宅看護技術論

地域・在宅看護援助論Ⅰ・・・・・・・・・・ P11

地域・在宅看護援助論Ⅱ チーム協働支援・・・・・・・・・・ P12

成人看護学概論 周術期看護各論 クリティカルケア看護

慢性期看護 がん看護・緩和ケア・・・・・・・・・・ P13

成人看護過程演習 周術期看護論 老年看護学概論

老年臨床看護Ⅰ・Ⅱ・・・・・・・・・・ P14

老年臨床看護Ⅲ・・・・・・・・・・ P15

小児看護学概論 小児看護技術論 小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ・・・・ P16

母性看護学概論 母性保健 母性看護学各論Ⅰ・Ⅱ・・・・ P17

精神保健 精神看護学概論 精神臨床看護Ⅰ・Ⅱ・・・・ P18

看護の探求 医療安全 災害看護・国際看護 看護管理・・・・ P19

基 礎 分 野

科学的思考の基盤

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
心理学	1	30	感覚・知覚、学習、記憶、発達、社会と集団など、幅広い心理学的知見を学ぶことにより、人間の行動、こころを多面的かつ柔軟に理解する力を身につける。そして、自己と他者（患者、仲間）を理解する能力を養う。また、内面的なものの見方、考え方を学習することを通して、論理的・批判的思考を育成する一助とする。	1. 心理学とは 2. 感覚と知覚 3. 記憶 4. 思考・言語・知能 5. 学習 6. 感情と動機づけ 7. 性格とパーソナリティ 8. 社会と集団、対人関係 9. 発達 10. 心理臨床 11. 医療・看護と心理
看護と物理	1	15	看護に必要な力学、圧力を特に詳しく学ぶ。力学は看護技術の基本であり、血圧をはじめとして圧力は看護に多く関わる分野であるとともに不十分な知識が医療ミスに繋がりがかねない。物理学の原理原則に触れることで看護における様々な疑問の解決、改善・改良につなげていく。	1. 力学の基礎と医療の関わり 2. ボディーメカニクスの物理 3. 圧力の定義、圧力の単位、大気圧、水圧 4. 呼吸器の原理、吸引、サイフォン 5. 点滴静脈内注射の物理 6. 循環器の物理、血圧 7. 感覚器の物理、体温制御の物理
教育学	1	30	教育と看護にはさまざまな共通点がある。教育学の学びを通して、看護領域に援用できる考え方や方法を身につけて欲しい。また、看護実践における指導技術の基本的なあり方を学ぶ。	1. 教育学を学ぶために 2. 教育をなりたせるもの 3. 教育の営みを考える 4. 現代教育の課題
論理的思考	1	30	苦しんでいる人を目の前にしたら「放っておけない」「何とかしたい」という気持ちになります。しかし、何が起きているのか、なぜ起きているのかを読み解けないと看護はできない。そこで論理的思考の仕組み、筋道立てて考える力、本質的問題発見の考え方について学ぶ。	1. 4つの考え方 ・上り下り ・対比 ・因果関係 ・時間軸 2. 4つの考え方のへの応用 ・伝わりやすい表現 3. 立場の変換 ・あなたと私 ・ナイチンゲールの三重の関心 4. なぜ看護といえるのかモデル

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
哲学・倫理	1	30	看護師は患者に最も近い医療者である。ゆえに多様な人間理解と「いのち」と向き合う医療者としての倫理観、根拠に基づいた論理的思考、状況に応じた臨機応変な判断力が要求される。これらを踏まえて、看護師として物事を多角的に捉える視点や哲学的思考方法・判断力、医療者として「いのち」の尊厳を尊重できる倫理観、生命の始まりと終わりをめぐる諸問題などを幅広く学ぶ。	1. 哲学と倫理 2. 医療倫理 3. 生命倫理 4. 現代の生命倫理の諸問題 5. 「いのち」の尊厳
情報科学Ⅰ	1	15	情報化社会の急速な発達、容易な情報収集と発信を可能にしたが、同時に個人の権利を侵害するリスクも増大させた。これに対応した法律の遵守は義務であり、また関連するリスクに配慮する倫理観は医療者のみならず社会人に必須である。臨床においては、このような法律や倫理に対応した医療情報通信技術やネットワークが構築、実用されており、医療者はこの仕組みを理解した上で適切に情報を活用することが求められる。本科目では、このような情報化社会に適応した立ち居振る舞いができる看護師の養成を目的とする。また卒後、看護師としての学習においても ICT を活用したものが普及しており、コンピューターを用いた情報処理の基礎を習得する。	1. 情報とは 2. ネットワークの仕組み 3. エビデンスに基づいた医療 4. 医療情報システムの概要 5. 知的財産権 6. 患者の権利 7. 個人情報保護 8. コンピューターの基本操作 9. 文献検索
情報科学Ⅱ	1	15	医師によって異なる様々な治療法が施術されていた昭和以前と異なり、現代医療では客観的な根拠（エビデンス）に基づいた治療スキームがガイドラインにまとめられ、日本のほとんどの地域で均一な医療を享受できる。この「医療の均一化」は統計を含む情報科学なしには成しえない。そこで、医療情報について客観的根拠を示した統計資料を適切に理解する能力を養うためにこの科目を設定する。また客観的根拠を示すための基盤となるデータ収集、解析、集計についてコンピューターの表計算アプリを活用する技術を習得する。	1. 統計学を学ぶ意義 2. 統計データの種類・度数統計データのまとめ方 3. 確率と分布 4. 母集団と標本 5. 仮説検定の基礎 6. 各種検定 7. 表計算アプリの基本操作 8. 表計算アプリを用いたデータの集計・まとめ 9. 表計算アプリを用いた仮説検定

人間と人間生活・社会の理解

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
社会学	1	30	看護の対象となる人間を統合した存在として捉えるためには、自分を取り巻く人間関係や社会現象をさまざまな角度からとらえる事が必要となる。社会学を通して、個人の問題としていた事象が、実は自分を取り巻く社会と密接な関係があることを知ることは、多様な社会の中で幅広いものの見方ができる能力を培い、社会的存在としての人間を理解することにつながる。このような「社会的想像力」を養うことで、看護の対象理解能力の基盤とする。	1. 「社会」学の基礎概念 2. 対面的な相互行為 3. 不特定多数の関係性 4. 社会的逸脱 5. 現代の労働 6. 社会的格差 7. 社会の病理 8. 社会関係資本 9. 福祉国家と福祉社会 10. ジェンダーとセクシュアリティ 11. 家族と社会 12. 現代社会の自己観察
文化人類学	1	15	グローバルな時代にあつて、異文化の人々と関わる機会は増えている。看護職として様々な文化のもとで生活している人々の暮らしや歴史を知り、文化の多様性と普遍性の認識が求められる。そこで、異文化の理解に努めることや人間の多様な生活・文化を広い視点で捉える力を養う。	1. 人間と文化 2. 質的研究とエスノグラフィー 3. 生殖と文化 4. 人生と通過儀礼 5. 宗教と世界観 6. 健康と医療
人間関係論	1	30	人間が社会的役割を果たす上で生じる葛藤や人間関係のありようについて学習し、自分を伝えていく方法や自分らしさを大切にしながら良い人間関係を作っていくためのヒントを得る。また、多様な価値観、さまざまな人々とよりよい対人関係を築くためのコンピテンシー育成を図り、カウンセリング技法やコーチング技法などを取り入れた援助的コミュニケーションスキルを学ぶ。	1. コミュニケーションの基礎 2. 「聴く」コミュニケーション 3. 「表現する」コミュニケーション 4. 葛藤と抵抗について考える 5. リーダーシップ 6. 「コーチング技法」 7. “人間関係”を見立てる①②③ 8. ケーススタディ
スタディ・スキル	1	15	看護教育は生涯学習の出発点となる基礎的能力を培う過程であるとともに、人間関係を通して自らも人間的な成長をしていく過程でもある。その為には、自らが、考え、調べ、論ずる主体的な学習能力を身につける必要がある。そこで、初年次に、「読む・書く・聴く・論ずる」を基本としてノートテイキングやレポート作成、グループワーク、プレゼンテーションなどのスキルを学ぶことで主体的な学習力の基盤を身につける。	1. 「5W1H」を意識する 2. 「要約」する 3. 「形式」を整える 4. 「説明」する 5. 「文章構成」の4つの型 6. 「意見」を述べる 7. 仲間と学ぶスキル

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
看護と英語	1	30	グローバル社会の中で、看護専門職として文化や価値観を理解した対応が求められます。医療・看護場面での基礎的な英会話を学ぶことにより、異文化・異言語の人々とのコミュニケーション能力を高める	1. First Encounter with a Patient (初対面の対応) 2. Symptoms (症状について問診) 3. Patient Profile (患者のプロフィール) 4. Medical History and Lifestyle Habits (病歴と生活習慣) 5. Unit Orientation (病棟内のオリエンテーション) 6. Activities of Daily Living (ADL: 日常生活動作) 7. Vital Signs (バイタルサイン) 8. Tests & Procedures (検査と処置) 9. Medication Administration (処方薬の管理) 10. Medical Drama 発表会 11. Discharge Instructions (退院時の指導)
健康と運動Ⅰ	1	15	人々の生活の場での健康問題を解決することは、看護実践において大切なことである。それには、まず自らの体力を客観的に知り自己の健康管理意識を高めることが必要である。日常生活の中で運動の意義や効果を体験し、生涯にわたり自主的に健康・体力づくりを実践する基盤を養う。	1. 心拍数を使って運動処方基礎を体験する 2. 体力テストの実施 3. パラリンピックスポーツ体験 4. 健康体力維持のための運動
健康と運動Ⅱ	1	15	人々の健康を支援するために、運動の効果および健康に役立つ運動について運動生理学の立場から理解を深める。また、運動を通じた健康支援活動を学び、人々の健康を保持増進するための看護に役立てる。	1. 医療と運動 2. 運動不足や身体不活動の影響 3. 体力と健康 4. 医療者として知っておきたい運動処方 5. 医療者として知っておきたい運動と体重の関係 6. 障がいと運動 7. 女性と運動

専 門 基 礎 分 野

人体の構造と機能

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
人体の構造と機能Ⅰ	1	30	医療の目的は、疾病の予防・治療によって人体を健康な状態に保ち、かつ健康な状態への回復を助けることである。この目的を達成するためには健康な人体の仕組みについての知識が不可欠である。看護学では、生活を生命活動とのつながりで理解することが重要であるため、人体の構造と機能をⅠ～Ⅳに分け、日常生活行動とのつながりで学ぶ。人体の構造と機能Ⅰでは、基本的な生活動作を支えるための運動器の構造と機能について学ぶ。また、身体の内環境を整える内分泌の仕組みと、生命の成り立ちを司る生殖器官および発生について学ぶ。	1. 人体とは 2. 運動器系の構造と機能 ・骨の構造と機能 ・筋の構造と機能 3. 内分泌 ・ホメオスタシスにおける内分泌 ・ホルモン分泌調節・作用機序 4. 生殖・発生 ・男性生殖器の構造と機能 ・女性生殖器の構造と機能
人体の構造と機能Ⅱ	1	30	血液、呼吸器・循環器系は絶え間なく働き続け、生命維持のため欠かせない臓器・器官である。また、これらの臓器・器官が良好に連携して働くことで生活行動を行うことができる。そこで、人が「生きていく」ために連続して働き続ける血液と呼吸器・循環器系の構造と機能について関連付けて学ぶ。	1. 血液の組成と働き 2. 呼吸器系の構造と機能 3. 循環器系の構造と機能
人体の構造と機能Ⅲ	1	30	消化器系、腎・泌尿器系の構造と機能を学ぶことで、生活の中で繰り返される「食べる」と「排泄する」ための身体の仕組みを学ぶ。	1. 消化器系の構造と機能 2. 腎・泌尿器系の構造と機能
人体の構造と機能Ⅳ	1	30	私たちの「生活」は、体を動かすために外部からの情報を取り入れ判断していくことで成り立っている。そこで外部から取り入れた情報を知覚認知し、判断する感覚器や神経系や、外部環境から身体を守る生体防御の仕組みについて学ぶ。	1. 神経系の構造と機能 2. 感覚器の構造と機能 3. 体温調節・生体防御
臨床生化学	1	30	身体の中では様々な物質が変化し、協調しながら体の健康を維持している。この変化、つまり身体がどのような成分から成り立っているか、それがどのように作られ、壊されて調節されて健康を維持しているかについて物質レベルで学ぶ。	1. 生化学を学ぶための基礎知識 2. 代謝の基礎と酵素・補酵素 3. 糖質の構造と機能、糖質代謝 4. 脂質の構造と機能、脂質代謝 5. タンパク質の構造と機能、タンパク代謝 6. 遺伝子と核酸 7. 転写・翻訳

疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
病理学	1	15	臓器、組織、細胞の変化としての病変とその再生・修復過程について学ぶ。また、人体の諸臓器・組織における病的状態を学ぶことで看護の視点で対象の健康を理解するための基盤とする。	1. 病理学で学ぶこと 2. 細胞・組織の障害と修復、炎症 3. 免疫、移植と再生医療 4. 感染症 5. 循環障害 6. 代謝障害 7. 腫瘍 8. 老化と死 9. 先天異常と遺伝性疾患 10. 生活習慣と環境因子による生体の障害
検査と治療	1	30	健康状態を把握するための診療に欠かせない検査および主な治療について学び、看護における観察・判断の基盤とする。また、医療機器の原理と適切な取扱について学び、安全な看護実践の基礎とする。	1. 検査の進め方と主な検査 2. 診断と治療 3. 放射線検査と治療 4. ME機器の原理と実際
微生物学	1	30	病原微生物がどのような感染症につながり人々の健康を脅かす問題になるのか理解し、看護実践において、感染予防、感染症に的確に対処できるようになるための基盤とする。	1. 微生物学の基礎知識 2. 感染とその防御 3. 主な病原微生物と感染症
臨床病態学Ⅰ	1	30	主な呼吸器系、循環器系、血液疾患の病因、病理的变化とそれに伴う症状および検査・治療について学び、看護実践における観察力・判断力を養う基盤とする。	1. 呼吸器疾患の病態と検査・治療 2. 循環器系疾患の病態と検査・治療 3. 血液・リンパ系疾患の病態と検査・治療
臨床病態学Ⅱ	1	30	主な消化器系、腎・泌尿器系疾患の病因、病理的变化とそれに伴う症状および検査・治療について学び、看護実践における観察力・判断力を養う基盤とする。	1. 消化器系疾患の病態と検査・治療 2. 腎・泌尿器疾患の病態と検査・治療
臨床病態学Ⅲ	1	30	主な運動器系、脳・神経系、感覚器系の疾患の病因、病理的变化とそれに伴う症状および検査・治療について学び、看護実践における観察力・判断力を養う基盤とする。	1. 脳・神経系疾患の病態と検査・治療 2. 運動器系疾患の病態と検査・治療 3. 皮膚疾患の病態と検査・治療 4. 眼疾患の病態と検査・治療 5. 耳鼻咽喉疾患の病態と検査・治療

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
臨床病態学Ⅳ	1	30	内部環境の調整、生体防御機能、生殖機能等に障害を起こす病態および検査・治療を理解する。 また、小児に起こりやすい疾患と治療および歯・口腔疾患の病態と治療について学ぶ。	1. 内分泌系疾患の病態と検査・治療 2. アレルギーと免疫系疾患の病態と検査・治療 3. 女性生殖器系疾患の病態と検査・治療 4. 小児の疾患と治療 5. 歯・口腔疾患の病態と検査・治療
臨床病態学Ⅴ	1	15	症候の原因・メカニズムを理解することは、症候の予防、健康回復、苦痛の緩和のための看護に不可欠である。看護の基盤となる臨床判断能力を養うために、症候を手がかりとした健康障害の理解の仕方と主な症候について学ぶ。	1. 事例を用いた健康障害の理解—症候を手がかりとして— 呼吸困難、意識障害、胸痛、腹痛、浮腫
薬理学Ⅰ	1	15	疾病の治療上で看護師は日常的に医薬品に触れるため、薬物の作用のしくみや法的制約を理解することが必要である。薬理学Ⅰでは、総論として医薬品の効果発現の仕組み、法律上の位置づけや制約等を学ぶ。また、各論として、呼吸、消化器、生殖器系に作用する薬剤、抗アレルギー薬・抗炎症薬、皮膚科用薬・眼科用薬について学ぶ。	1. 薬理学を学ぶにあたって薬理学の基礎知識 2. 呼吸・消化器・生殖器系に作用する薬物 3. 抗アレルギー薬・抗炎症薬 4. 皮膚科用薬・眼科用薬
薬理学Ⅱ	1	30	薬理学Ⅰ総論で学んだことを基礎として、主な治療薬の主作用と副作用(有害事象)および投与経路を理解し、医薬品を有効かつ安全に使用する上で看護師が注意すべき点を理解する。	1. 抗感染症薬 2. 抗がん薬 3. 免疫治療薬 4. 末梢での神経活動に作用する薬物 5. 中枢神経系に作用する薬物 6. 麻酔性鎮痛薬その他の鎮痛薬 7. 麻酔薬 8. 循環器系に作用する薬物 9. 物質代謝に作用する薬物 10. 救急の際に使用される薬物 11. 漢方薬 12. 消毒薬 13. 輸液製剤・輸血剤
栄養学	1	30	現代の食生活を理解し、人々の健康時・疾病時の栄養管理について理解する。また、人間のライフステージにそって栄養管理のポイントを理解し、看護アセスメント能力を身に付ける。さらに、高齢化社会を迎えて臨床や在宅で用いることの多い経管栄養や中心静脈栄養管理、そして疾病とその栄養療法(食事療法)の基本を学ぶ。	1. 人間栄養学と看護 2. 栄養ケア・マネジメント 3. 栄養素の種類とはたらき 4. 食物の消化と栄養の吸収・代謝 5. エネルギー代謝 6. 栄養補給法 7. ライフステージと栄養 8. 臨床栄養

健康支援と社会保障制度

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
地域と福祉	1	15	人は生まれてから死ぬまでの生活において、個人の努力だけでは対応が難しいさまざまな困難に直面する。この困難は、家族、政治、経済、環境などとの関係を見無視できず、また平和な社会が大前提となる。個別の努力と様々な支援を活かした解決策にはどのような仕組みがあるのだろうか。看護者としての支援のあり方を見出すために、社会福祉協議会や NPO など、多くの地域福祉関係団体の活動と役割について学ぶ。	1. 地域福祉を学ぶにあたって 2. 地域福祉の担い手 3. 地域福祉の実際に学ぶ 4. 小地域福祉活動とまちづくり 5. 地域包括支援とは何か 6. 地域福祉計画と地域福祉活動計画
社会保障論	1	30	保健医療福祉に関する基本概念、制度、関係する役割等を理解し、人々が生涯を通じて、健康や障害の状態に応じた生活保障するための社会福祉制度を学ぶ。	1. 日本の保健医療福祉活動の基本概念 2. 社会保険制度 3. 社会福祉諸法の理念と施策 4. 社会福祉行政
公衆衛生学	1	30	公衆衛生的観点から人々の健康的な生活を支える社会の仕組みを学び、健康の保持・増進・疾病予防に関する社会システムや役割について理解する。また、地域を対象とする保健の構成分野を理解し、保健活動の実際について学ぶ。	1. 公衆衛生の目的と意義 2. 健康の指標 3. 健康とその成立 4. 成人保健 5. 感染症対策 6. 母子保健と学校保健 7. 環境と健康 8. 地域における保健活動の実際 9. 職場と健康
多職種の役割と連携	1	15	人々の健康と暮らしを支える仕組みにおいて、そこに携わる職種、活動の場は多様である。支援対象の持つ課題・時期・場によってそれぞれの専門性が求められる中、相互に連携することでよりよい成果をもたらすことが可能となる。そこで、救命・回復過程・地域で暮らすという 3 つのテーマから、関係する職種の役割と連携の実際を知り、パートナーシップのあり方を学ぶ。	1. 救命救急医療場面での連携 2. リハビリテーション関連職種との連携・協働 3. 地域で暮らす人々への支援と連携
リハビリテーション論	1	15	超高齢社会の中、慢性疾患を抱え障害と共に生きる人々への支援は重要となる。その人らしくより良く生きる支援につなげるためのリハビリテーションの実際について学ぶ。	1. リハビリテーション概論 2. リハビリテーションの実際 3. 在宅とリハビリテーション
医療論	1	15	医療はどのように進んできたのか、なぜ現代のような医療制度が成立したのか、いま何が問題なのか、これからの医療はどのような方向に向かうのか、看護の基盤にある医療体制と医療者の使命や役割を理解し、現代医療の課題や展望を考える。	1. 医療とは 2. 医療の変遷 3. 医療を支える人々 4. 医療システム 5. 医療に携わる者の使命 6. 現代医療の課題と将来展望

専 門 分 野

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
看護学概論	1	30	看護の歴史的変遷を踏まえて、看護の主要概念である人間・健康・環境(生活)・看護活動について広い視野から学び、看護の機能や役割を理解する。	1. 看護の概念 2. 看護の対象の理解 3. 健康と病気 4. 看護実践のための理論 5. 看護の提供者 6. 看護における倫理 7. 看護の提供のしくみ
基本技術論Ⅰ	1	30	看護技術とはなにか、感染予防や医療安全といったあらゆる看護技術を支える要素を学ぶ。また、看護技術習得のためには、知識の獲得とともに反復した技術練習の必要があることを学ぶ。	1. 技術の概念 2. 感染防止の技術 3. 安全確保の技術
基本技術論Ⅱ	2	45	看護の基盤となる人間関係形成のためのコミュニケーション技術を学ぶ。さらに、ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、対象の健康状態を観察・評価するための技術を学ぶ。	1. コミュニケーション 2. 看護記録 3. ヘルスアセスメント 4. フィジカルアセスメント演習
基本技術論Ⅲ	1	30	看護過程は看護活動に活用される科学的思考過程である。アセスメントに基づき、看護を実践するために必要な方法として看護過程の意義と展開のプロセスを学ぶ。	1. 看護過程とは 2. 看護過程の各段階 3. 事例を用いた看護過程の展開
生活援助技術論Ⅰ	1	30	環境は人の生活と健康に大きく関与している。環境を整える技術、および生活を営む上で欠かせない活動と休息の援助技術を学ぶ。	1. 環境調整技術 2. 活動・休息の援助技術
生活援助技術論Ⅱ	1	30	生きるために生活の中で繰り返される「食べる」と「排泄する」について学び、栄養摂取と排泄の援助技術を学ぶ。	1. 食事の援助技術 2. 排泄の援助技術
生活援助技術論Ⅲ	1	30	身体的・心理的・社会的側面から重要な生活行動である「清潔保持」「着衣」について学び、具体的な看護技術を身につける。	1. 清潔の援助 2. 病床での衣生活の援助 3. 身体ケアを通じてもたらされる安楽

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
診療援助 技術論Ⅰ	1	30	診療を受ける患者に対して安全・安楽な看護を実践するための基盤として、診療（診察・検査・処置）場面における看護師の責任と役割および正確なデータを得るための方法と技術を学ぶ。	1. 診察・検査・処置に伴う看護技術 2. 呼吸・循環を整える技術 3. 症状・生体機能管理の技術
診療援助 技術論Ⅱ	1	15	安全・安楽な看護を実践するための基盤として、与薬・輸血と創傷処置に関する基本的な知識と技術を学ぶ。	1. 与薬と輸血の技術 2. 創傷管理技術
教育指導 技術論	1	15	看護における教育・指導の理論と方法を理解し、対象に応じた教育指導技術の基本を学ぶ。	1. 看護における学習支援 2. 代表的な学習理論 3. 学習支援の実際 4. 指導計画の立案 5. 患者指導演習
臨床看護 総論	1	30	既習の知識と技術を統合して健康障害を持つ対象を理解し、健康上のニーズに応じた看護の方法を学ぶ。	1. 看護の対象者の理解 2. 経過別看護 3. 治療処置別看護 4. 主要症状別看護 5. 状況設定演習

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
地域の暮らしと看護	1	15	生産年齢人口の減少にともない、世の中の社会システムは、「公助」「共助」の時代から「自助」「互助」への転換を迫られている。地域包括ケアシステムの推進のため、看護師は地域へと活動の場を広げていくことが期待されている。そこで、地域で暮らす人々と生活、健康な生活について理解を広げ、人々やコミュニティとのパートナーシップに基づく支援のあり方について学ぶ。	1. 地域の暮らしと健康 2. 地域・在宅看護の対象となる人々 3. 健康と暮らしを支える看護
地域・在宅看護概論	1	15	地域・在宅看護への社会のニーズが高まっており、また、保健医療福祉の中で看護の専門性が発揮されることが強く望まれている。地域・在宅において良質で適切な看護を提供するための導入として、社会背景をふまえた地域・在宅看護の変遷や在宅看護の意義を学び看護への興味、関心へと繋げられる第一歩とする。さらに、地域・在宅看護の概念、対象、方法を学び、在宅看護を支える制度、地域ケアシステムの中の看護の役割と関連職種との連携の必要性を理解する。	1. 地域・在宅看護の概念 2. 地域・在宅看護の対象の理解 3. 地域・在宅看護が提供される多様な場 4. 地域・在宅看護を支える制度と社会資源 5. 地域・在宅看護のケアマネジメント 6. 地域・在宅看護におけるリスクマネジメント
地域・在宅看護技術論	1	30	地域・在宅看護の特徴を踏まえ、「生活の場」での看護実践がどのように始まるのかを知り訪問看護において求められる基本姿勢や看護過程の展開を学ぶ。また、在宅での日常生活援助技術についての考え方や判断、具体的方法について理解し技術を提供できる力を養う。	1. 訪問看護の始まりと実践 2. 地域における暮らしを支える看護技術
地域・在宅看護援助論Ⅰ	1	30	生活の場において医療・看護を必要とするあらゆる年齢の人々とその家族への看護方法を学ぶ。また、地域・在宅で暮らす人々を支えるチームとチームにおける看護職の役割について理解する。さらに、在宅エンド・オブ・ライフケアを受ける療養者と家族の理解と支援について学ぶ。	1. 在宅で療養する難病療養者への看護 2. 在宅で療養する慢性疾患の人への看護 3. 糖尿病の療養者への看護 4. 在宅看護とエンド・オブ・ライフケア 5. 在宅医療の考え方 6. 訪問看護活動の実際と展望

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
地域・在宅看護援助論Ⅱ	1	30	地域・在宅看護の対象は療養者本人のみならず家族も含み、発達段階や健康段階、生活環境も多様である。各領域で学んだ知識を基に対象を理解し、在宅での生活と療養を支援するための援助を学ぶ。	1. 家族支援のあり方 2. 認知機能に障害のある療養者と家族の看護 3. 脊髄損傷により重度障害を負った状態での在宅療養者の支援 4. 生活上のリスクマネジメントへの支援 5. 劣悪な住環境にある人への支援 6. 在宅療養を支える地域連携システム 7. 在宅看護の過程
チーム協働支援	1	15	健康で豊かな生活を支援するためには、人々とよりよい人間関係を成立させること、様々な職種が連携・協働していく力が不可欠である。ここでは異なる職種の学生がお互いの専門性を知り、人々が健康で豊かな生活を送るための支援について考える。目標に向かって共に話し合う体験を通して、協働に必要な力とその意味について学ぶ。	1. 互いの職種紹介と役割と活動の理解によるチーム作り 2. 協同学習で達成したいテーマ・目標の設定 3. 地域で暮らす人々が、安心・安全・豊かな生活を送るための支援を企画 4. 発表と意見交換による学びの共有

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
成人看護学概論	1	30	成人の成長発達の特徴について役割や健康障害を踏まえて理解し、身体機能の特徴と生活行動(生活習慣・健康障害)と関連させて捉え、生活者としての成人を理解する。成人は活動性や価値観も多様であり、それに伴い健康観も様々である。成人にある人の特徴を理解し、セルフケア力を引き出すための支援のあり方について学ぶ。	1. 成人の発達段階の特徴 2. 対象の生活 3. 環境と生活 4. 生活習慣病 5. 医療にかかわる対策 6. 成人への看護アプローチの基本 7. 症状マネジメント 8. 集団の持つ意味 9. チームアプローチ 10. ヘルスプロモーション 11. 急激な破綻と回復支援 12. 慢性期とともに生きる人を支える看護 13. 障害がある人の生活とリハビリテーション 14. 人生の最後のときを支える看護
周術期看護各論	1	30	周術期看護論での学びを発展させて、呼吸器系、消化器系、脳・神経系の手術を受ける成人期の対象の看護を学ぶ。手術を受けることに伴う身体侵襲や苦痛、心理面や生活への影響を理解し、合併症予防、回復促進に向けての看護を学ぶ。	1. 呼吸器系の手術を受ける対象の看護 2. 脳・神経系の手術を受ける対象の看護 3. 消化器系の手術療法を受ける対象の看護
クリティカルケア看護	1	30	生命危機状態にある対象の特徴を理解しクリティカルケアを必要とする患者・家族への看護の基本を学ぶ。さらに、循環、呼吸、脳・神経系に障害のある対象を理解し治療・回復過程に応じた看護を学ぶ。	1. クリティカルケアの基本的知識 2. 循環機能障害を持つ患者の看護 3. 呼吸機能障害を持つ患者の看護 4. 脳・神経機能障害(脊髄損傷)のある患者の看護
慢性期看護	1	30	慢性疾患を持つ対象は生涯にわたって治療を継続し、疾患を抱えながら社会生活をしていく。そのためにはセルフマネジメントや自己効力感を高めるための援助が必要となる。増加している糖尿病・腎臓病の患者の事例を用いて、対象者が慢性疾患と共に生活できるような看護について学ぶ。	1. 内部環境調節障害のある患者の看護 2. 栄養代謝機能障害のある患者の看護 3. 内分泌障害のある患者の看護
がん看護・緩和ケア	1	30	がん医療における集学的な治療と経過を理解し、治療選択における意思決定支援の方法について学ぶ。また、経過に応じた対象の特徴を理解すると共に全人的な理解の重要性を認識し、診断期～終末期における看護を学ぶ。	1. 集学的治療と看護 2. 診断期における看護 3. 治療期における看護 4. 回復期における看護 5. 終末期における看護

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
成人看護過程演習	1	15	事例を通して看護過程展開を学ぶことで、成人期にある対象の発達段階の理解を深め、問題解決能力の向上をねらうと共に、対象の自立に向けた看護を学ぶ。	1. 看護過程の実際 2. 事例を用いた看護過程演習
周術期看護論	1	30	身体変化をきたしやすい周術期においては、的確な判断と迅速な行動が求められる。その為には、周術期における患者の身体的、精神的、社会的な特徴を理解し、臨床判断を行うための基礎的能力を身につける必要がある。周術期にある成人期・老年期の対象を理解し、患者が健康的な生活を取り戻すことができるよう、回復促進に向けた看護を学ぶ。	1. 手術を受ける成人期の患者の看護 2. 周術期を理解するための基本的な知識 3. 術後合併症 4. 手術を受ける高齢者の看護 5. 周術期看護過程 6. 離床に向けての援助の実際
老年看護学概論	1	15	老年人口の増加や家族形態の変化から高齢者に対するさまざまな社会問題がクローズアップされる中、専門的な知識や技術に基づいて看護が行われることが求められている。そこで、高齢者の特性を身体的・精神的・社会的な側面からとらえ、加齢や疾病が高齢者の生活に与える影響について理解し、生活状況や場に応じた高齢者と家族への看護のあり方を学ぶ。	1. 高齢者の理解 2. 高齢者をとりまく保健医療福祉の現状と動向 3. 老年看護の役割と特徴 4. 高齢者のヘルスアセスメント
老年臨床看護Ⅰ	1	15	『加齢』は人が生きていくうえで避けては通れないことであるが、高齢者は加齢に伴う機能の変化により健康が脅かされやすい状態にある。高齢者の持てる力を活用しながら、その人らしい生活の追及と実現をしていくことのできるよう、高齢者に特徴的な症候について学び、高齢者の様々な生活の場に応じた看護を学ぶ。	1. 高齢者の健康 2. 高齢者に特有な症候と看護 3. 治療を必要とする高齢者の看護 4. 生活・療養の場における看護 5. 高齢者の権利擁護 6. 高齢者と災害
老年臨床看護Ⅱ	1	15	高齢者人口の飛躍的増加と医療の発展に伴い、80歳以上の高齢者も手術を行う時代になってきた。一方、高齢者の手術療法は、身体機能の低下に伴い多くの問題点を含み、時として周手術期における合併症を引き起こし、高齢者の生活に大きな影響を与える。このような高齢者に対し、健康への回復を安全に促進するための周術期における高齢者の看護を学ぶ。	1. 運動器に障害のある高齢者の手術と看護 2. 下部尿路に障害のある高齢者の手術と看護

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
老年臨床看護Ⅲ	1	30	高齢者の入院加療においては、入院当初から計画的に退院後の生活を見据え、生活機能低下させない取り組みが必要である。しかし、高齢者の健康障害は、高齢者の自立した生活に影響するのみでなく、その人らしい生活の実現にも支障をきたすことにつながる。そこで、高齢者の生活機能に支障をきたす疾患・障害について理解し、回復期・慢性期にある高齢者への看護を学ぶ。	1. 身体障害を有する高齢者の看護 2. 高齢者のエンド・オブ・ライフケア 3. 疾患・障害のある高齢者への援助 経管栄養法の基本

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
小児看護学概論	1	30	小児期はその後に続く各期への出発点であり、小児看護は、人間の成長にとって重要な時期にある対象の健康を支援する役割を持つことを理解する必要がある。まずは、健康な子どもを理解するために本質的な特徴である成長・発達について、その原則、影響因子を理解し、小児各期の形態的・機能的・精神運動的発育について学習する必要がある。さらにその発達を支える栄養や現代の子どもがおかれている現状を理解し、法律や制度の面から社会が子どもの健康をどのように保障しようとしているかを学ぶ。	1. 子どもの理解 2. 小児看護の目的と機能 3. 子どもの権利と小児看護における倫理 4. 子どもと家族を支援するための法律と施策 5. 子どもの成長・発達 6. 子どもの栄養 7. 小児各期の養護と生活指導 8. 子どもの遊びや教育
小児看護技術論	1	15	子どもは自分の症状や苦痛をうまく表現できない場合がある。そのため、健康を障害された子ども及び家族について理解し、小児期によくある症状と、その看護の方法を学ぶ必要がある。また、健康を障害された子どもの看護をするにあたり、成長・発達に合わせた基本的な看護を学ぶ。	1. 健康障害がある子どもと家族の理解と看護 2. 小児のフィジカルアセスメント 3. 健康障害がもたらす小児期によくある症状と看護 4. 小児の事故防止と安全対策
小児看護援助論Ⅰ	1	15	健康を障害された子ども及び家族を理解し、疾患の回復、健康の保持・増進、成長・発達を促すための援助がわかる必要がある。そのためには子ども及び家族の心理状況や心理的準備の重要性を理解し、さまざまな状況におかれた子どもと家族の看護を学ぶ。	1. 検査や処置を受ける子どもと家族の看護 2. プレパレーション・ディストラクション 3. 急性期にある子どもと家族の看護
小児看護援助論Ⅱ	1	30	健康を障害された子ども及び家族を理解し、疾患の回復、健康の保持・増進、成長・発達を促すための援助がわかる必要がある。そのためには子ども及び家族の心理状況や心理的準備の重要性を理解し、様々な状況におかれた子どもと家族の看護を学ぶ必要がある。また、事例検討を通して、健康障害を持つ子どもとその家族をアセスメントし、実施・評価する過程を学ぶ。	1. 様々な状況におかれた子どもと家族の看護 2. 事例検討

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
母性看護学概論	1	15	母性看護の概念や母性の対象や発達についての理解、母性看護の変遷から今後の発展課題を考える。また、人間の性と生殖やセクシュアリティの発達について学び、人間の性の意義を考え理解するとともに、母性看護を取り巻く倫理的な問題・課題について考え、意思決定に対する支援について学ぶ。	1. 母性の概念と母性看護の意義と役割 2. 母子保健統計 3. 母子保健施策 4. リプロダクティブヘルス/ライツ 5. 女性のライフサイクルと母性 6. 母性の対象の理解と実践の基盤
母性保健	1	15	女性のライフサイクルにおける健康の増進ならびに疾病の予防に関して理解し、母性の健康維持・増進に向けての援助や保健指導について学ぶ。また周産期の対象（妊娠期）を統合的に理解し、対象に応じたウェルネスの視点に立った看護をおこなうための知識・技術を学ぶ。	1. 地域母性保健と母性看護活動 2. ライフステージ各期の健康問題と看護 3. 妊娠期の生理 4. 妊娠期の看護
母性看護学各論Ⅰ	1	30	新しい家族の形成期にある人々の身体的・心理的・社会的特徴の理解と、日常生活における基本的なセルフケアを維持・促進する援助が行えるように、必要な基礎知識とヘルスプロモーションの視点を基にした援助技術について学ぶ。新しい家族の出発点であり、その後の家族形成に大きな影響を与える生命誕生の意義についてについて学ぶ。	1. 分娩期の看護 2. 新生児期の看護 3. 新生児疾患 4. 妊産婦・新生児に必要な看護技術
母性看護学各論Ⅱ	1	30	生命の誕生を迎え、新しい家族の形成期にある人々の身体的・心理的・社会的特徴の理解と、日常生活における基本的なセルフケアを維持・促進する援助が行えるように、必要な基礎知識とヘルスプロモーションの視点を基にした援助技術について学ぶ。胎児をふくめた母子を一体とし、家族も看護の対象として考え、育児支援や家族形成のあり方について学ぶ。	1. 産褥期の生理と看護 2. 妊娠期・分娩期・産褥期の疾患と治療 3. 産褥期に必要な看護技術 4. 正常分娩の母子の看護過程の展開(事例演習)

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
精神保健	1	30	対人関係を営みながら現代社会で社会生活を送る人間のこころの構造と機能、心の発達、人間関係の中で生じる心の働き、感情労働のしくみについて理解を深め、精神看護を実践するための基礎的知識を習得する。	1. 精神看護で学ぶこと 2. 「心のケア」と日本社会・現在の支援 3. 自殺とメンタルヘルス 4. 精神障害というとらえ方 5. ストレスと健康の危機～心身の健康に及ぼすストレスの影響～・ストレス緩和ケアの実際 6. 心理的特性をはかる検査 7. 学習と行動 8. こころのはたらきと人格の発達 9. 成長発達・社会的構造の変化に伴う精神の危機 10. 虐待を受けた子どもたちの支援 11. 災害時のメンタルヘルスと看護 12. リエゾン精神看護とその活動 13. 看護師のメンタルヘルス
精神看護学概論	1	15	精神医療の世界的な動向と日本の現状をつかんで現代社会における精神保健・看護ニーズの高まりを理解し、現代社会の求めに応じられる精神看護の実践力を身につける。	1. 社会のなかの精神障害 2. 精神看護に活用する看護理論 3. 精神を病むことと生きること 4. ケアの人間関係
精神臨床看護Ⅰ	1	15	精神に健康問題を持つ人について理解を深め、精神症状と状態像、治療、検査についての知識を持つとともに、代表的な精神疾患を理解し、よりよい看護援助を展開するための基礎的知識を習得する。	1. 精神疾患のあらわれ方 2. 精神科での治療と看護
精神臨床看護Ⅱ	1	30	精神の健康問題を持つことは特別な事ではなく、誰もが罹患する可能性のある心の反応である。そこに至るまでの背景に目を向け、対象を全人的に捉えた上で、症状や言動をアセスメントする力を養う。さらに、対象が自らの病気やその特性と上手に付き合い再発予防策を習得できるように多職種と協働して支援するための看護の基礎的な知識・技術を学ぶ。	1. 回復を支援する 2. 地域におけるケアと支援 3. 入院治療の意味 4. 身体をケアする 5. 安全を守る 6. 精神に健康問題を持つ人の看護の実際

科目名	単位	時間	ねらい	学習内容
看護の探求	1	30	より良い看護を提供するためには自らの看護を追求する努力が必要である。この科目では、看護研究の種類と方法、文献検索について学び、研究の基本と研究的態度を養う。そして、臨地実習で体験した自身の看護を考察し、研究的態度を養い、また、自己の看護観を培う。	1. 看護研究とは 研究の目的と意義 看護研究の種類 研究の過程と進め方 文献検索 2. 事例研究
医療安全	1	30	高度化する医療と看護活動の広がりの中、安全で良質な看護の提供は不可欠である。この科目では、看護師としての法的責任を理解し、安全を守るための基礎的知識・技術を養う。対象に適した安全・安楽な看護技術の習熟度を高めると共に、リスク回避・予防のための行動について学ぶ。	1. 看護における医療安全 危険予知トレーニング 多重課題・時間切迫における判断と対応 2. 看護の技術の統合 事例を用いた技術演習 看護技術の総合評価
災害看護 国際看護	1	30	近年、災害の規模や頻度が拡大し、災害時に看護師の果たす役割はさらに重要となっている。そこで、災害看護の基礎的な知識と技術を学ぶ。 また、グローバル化が進んでいる現在、看護においても諸外国との相互協力や保健医療における文化の相違を知り、視野を広げることが求められている。国際看護へと視野を広げ、学び続けるスタートとなるよう、国際協力の仕組みや開発協力・国際救護と看護について学ぶ。	1. 災害医療の基礎知識 2. 災害時に必要な技術 3. 国際看護学とは 4. 国際協力の仕組み 5. 開発協力と看護 6. 国際救護と看護
看護管理	1	30	医療・看護に関連する法令や制度を学び、看護職として法のもとに行動することを前提に、保健・医療・福祉分野における社会のニーズに応える看護ケアを提供することが求められている。看護管理の基本的な知識を学び、看護の専門性と責務に基づいた看護実践を学ぶ。	1. 看護関連の法令と諸制度 2. 看護部門の組織 3. 看護管理とは 4. 看護管理者のマネジメント